

# 世界旅打ち気分

●第48回・ロンドンから列車で行ける3場

## 須田鷹雄

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>  
#グリーンファーム会報#2022年10月号  
でご覧いただけます



リングフィールドの屋外ブックメーカー風景



ケンプトンパークのナイター・AW開催



ニューバリーの場内は広く、スタンドも立派

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

海外の競馬場に行ってみたが、レンタカーの運転がちょっと怖い、という話を聞くことがある。確かに、アメリカあたりではレンタカー必須の競馬場も多いし、そこに右側通行というハードルも加わるので初心者には難しい。

レンタカー利用の常識も日本とは違うところがあり、フランスはなにも考えずに予約すると、クルマが来るのがけっこうある(予約時にサイトをよく見るとオートマ指定ができる)。個人的にフランスで経験したところでは、オプションでカーナビをつけたところ、そのナビがフランス語のみだった(冷静に考えれば想像がつくのだが)なんざ、あった。

自分で運転をせずに公共交通機関だけで競馬場にたどり着けるならだいぶ気軽だし、競馬場でアルコールを摂取しても問題ない。身近なところでは香港の2場やソウルの競馬場が鉄道駅(ハッピーバレーは停留所)直結だが、欧米でいうとイギリスは列車で行きやすい競馬場が多いように思う。今回はロンドンに滞在しているという前提で、大レースというよりは日常的な開催を列車で見に行きや

すい競馬場を3つご紹介しよう。まずはリングフィールド競馬場。ロンドン・ビクトリア駅から50分ほど列車に乗ってリングフィールド駅で降り、そこから競馬場まで15分ほど歩くことになる。

ロンドンはパリなどと同様、市内にいくつかの主要駅があり、そこから放射線状に各方面へ向かう列車が出てくる。そのひとつがビクトリア駅である。ターミナル駅の中では規模が小さい方だと思うが、それでも駅構内の店舗などはいくつもある。

リングフィールドはイギリスで最初にオールウェザートラックを導入した競馬場で、ラップタイムの測定装置を導入するなど、イギリスの競馬場としては先進的な試みをしてきた場になる。グループレースはG3ウインターダービーくらいしかないのでも、大レースを見に行くという場所ではないが、冬場でも開催があるので観光のついでに訪れるチャンスがそれだけ広がる。

2004年にはスタンドの規模を縮小しつつリニューアルする工事が行われ、いまではごんまりともしっかりきれいなスタンドになっている。

イギリスの競馬場にしては入りやすそうなレストランもある一方、毎度おなじみフィッシュアンドチップスの売店もある。このフィッシュアンドチップスは競馬場のものにしては悪くないものだったように記憶している。

調べたところ最後に訪問したのが12年なのでもう10年経っているが、10年前唯一困ったのがATM。日本のクレジットカードは受け付けてくれず、向こうのカードのみ利用可能のようだった。現金の持ち合わせがあればいいが、無いと馬券を買えないということになってしまったので、気を付けた。

ちなみにこのリングフィールド競馬場は、敷地内にホテルがある。10年にオープンしたマリOTTホテルで、「競馬場に泊まる」という経験が可能だ。ただ競馬場の周囲には特になにもないので、競馬終了後はホテル内で過ごすしかないと思う。あくまで競馬場に泊まるという体験を試みたい方のみおすすめだ。

2つめはケンプトンパーク競馬場。この競馬場は17年に「21年までに閉鎖され、住宅地に転用される」というニュースが流れた。敷地を

売ることによってジョッキークラブが将来の運転資金を獲得し競馬産業全体の永続をはかるというような説明だったように記憶しているが、筆者が21年11月に行ったときには普通に開催していたし、22年も普通に開催されている。

ロンドン側の始発駅はウォータールー駅で、ケンプトンパーク駅までは列車で40分ほど。駅を降りると競馬場の入り口が見えているので分かりやすい。

このケンプトンは芝、オールウェザーの開催に加え障害の開催もある。平地の大レースはないが、障害は12月の終わりにG1がある。クリスマス時期にロンドンを訪れるならケンプトン訪問を忘れず組み入れたいところだ。

特に大きいレースがあるわけでもない普通の日はのんびりしたもので、おそらく日本から行くメインスタンド1階の一般フロアで過ごすことになると思う。どれだけ人の少ない開催でも軽食やコーヒーを売る売店は開いている。パドックを見る際もメンバー専用エリアというよなものではなく一般入場者でも好きな角度で見ることが出来る。

今回紹介する3場ではロンドン

からの所要時間がいちばん短いのだが、気を付けないのは帰りの列車の時間。これは今回紹介する他の2場にもある程度共通するが、イギリスの小駅は部屋状の待合室などがなく、基本的に吹きっさらし。列車の待ち時間が長くなると確実に風邪をひく。ケンプトンから帰る列車の時刻はレースの終わるタイミングに合わせてくれるわけではないので、列車ありきで競馬場を出るタイミングを決めたほうがいい。

最後はニューバリー競馬場。今回ご紹介する3場の中ではいちばん格式を感じる競馬場である一方、ロンドン中心部からの距離は少しだけ遠い。

ロンドン側の始発駅はパディントン。競馬場直結の駅はニューバリー競馬場。いちばん良いのはパディントン始発・乗り換えなしで競馬場駅に停まる列車。開催日の早い時間帯には設定があるはず。グループマップで調べるとニューバリー駅まで行って1駅列車で戻るとか、ニューバリー駅で降りて競馬場まで歩く(1駅ぶん)という選択肢が出る可能性があるが、おすすめできない。それよりは途中のリーデ

ィングで乗り換え、競馬場駅に停まる列車を選ぶほうがよい。帰りも同様で、とにかく競馬場前駅から上りに乗り、不運にもそれがパディントン行きでない場合はリーディングで乗り換える。

この競馬場はG1ロッキンジスやる競馬場だけあって大きいスタンドも立派。ただ、メンバーでない旅行者が使えるゾーンは限られる。3つある大スタンド(他に小さな建物も)のうちいちばんシンプルなもの是一般客用なのだが、小さい開催の日だと開いていないことがある。より格式ある感じのスタンドは、1階のバーなど限られた部分だけ入れる。

筆者が最後に訪れたのは21年11月だが、コロナ禍真っ最中にもかかわらずバーは超満員&全員ノーマスク&お喋りしまくりで、さすがイギリス人という感じだった。今度は感染症を気にしないでいい時に行ってもっとリラックスしつつ楽しみたいものである。今回の3場で読者の皆さんがイメージする「イギリスの競馬場」に最も近いのはニューバリーかと思うので、機会があったらぜひ訪れていただきたい。